

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091900052		
法人名	社会福祉法人 真養会		
事業所名	グループホーム 老花家		
所在地	〒825-0002 福岡県田川市大字伊田2585番地4 0947-50-8800		
自己評価作成日	平成27年01月10日	評価結果確定日	平成27年02月14日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 093-582-0294		
訪問調査日	平成27年02月04日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・「真心のこもった対応で 真剣に福祉に取り組み 真の福祉社会に貢献します」を理念とし、その人らしく生活していただき、要望や希望に対しNOと言わないサービスに心掛けている。</p> <p>・自然と居間に人が集まる間取り配置にしており、床暖房も完備している。個別浴室は十分なスペースを確保しカラフルで明るい浴室である。</p> <p>・食事作成については利用者が食べたいものや好きなものをメインに検討している。特にたこ焼き・お好み焼き・鍋・刺身は大好評である。</p> <p>・月2回の買い物外出、毎週土曜日のカラオケの日、第1第3日曜日のビデオ上映会等行事実施も充実しており利用者が毎回楽しみにして下さっている。</p>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「老花家(おかか)」は、自然が残る住宅地の中に、デイサービス併設の1ユニットのグループホームである。自治会に加入し、利用者職員は、地域の行事や清掃活動に参加し、法人全体の夏祭りには、家族や地域住民が多数参加し、地域交流の輪が少しずつ広がっている。管理者は、認知症の進行を遅らせる有効な方法の一つが「情緒の安定」にあると確信し、利用者の自由で、あるがままの暮らしの支援と、カラオケ等の音楽療法を振り入れ、利用者全員が、1年前と同じ介護度を維持し、明るい笑顔で過す利用者を見守る家族は、安心と喜びに包まれている。馴染みのかかりつけ医の受診を職員が同行して行い、主治医と信頼関係を築き、結果を家族に報告し、情報を共有している。また、職員が心をこめて作る手づくりの料理を沢山食べて、利用者の健康増進に繋げ、今後が期待されるグループホーム「老花家」である。</p>
--

### ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:25.26.27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:20.40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:38.39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:32.33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「真心のこもった対応で、真剣に福祉に取り組み、真の福祉社会に貢献します」を理念に掲げ、利用者の要望に対しNOと言わないグループホームづくりを目指している。	法人が目指す介護のあり方を明示した理念を掲げ、朝夕2回の申し送り時に唱和し、理念を共有している。管理者である所長を中心に、人員配置を工夫し、業務改善を行い、職員一人ひとりが理念を常に意識して真心のこもった対応で、利用者の要望に対しNOと言わないで利用者本位の介護サービスに取り組んでいる。
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	三井鎮西区の組入りをさせて頂き盆踊り大会参加をした。又敬老の日には区より記念品をいただいた。	町内会に加入し、年1回の清掃活動や盆踊り大会に参加し、法人全体の夏祭りには、地域住民や家族の参加もあり、地域の一員として交流を図っている。近所の公園へ散歩に出掛け、地域の方と挨拶を交わしたり、中学生がトイレを借りに立ち寄り等、開設2年目を迎え、少しずつ地域交流の輪が広がっている。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設のデイサービスに通所されている認知症のある利用者への対応方法をデイサービス職員と共用して検討している。	
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、毎月の取り組み内容を報告し、地域の交流会などの情報をいただき参加することで利用者へのサービス向上を図っている。	2ヶ月毎に開催する運営推進会議には、区長、民生委員、地域包括支援センター職員の参加があり、地域や行政との情報交換の場として充実した会議になっている。ホームの運営状況や取り組み、課題等を報告し、各委員からは、質問や相談等が出され、ホーム運営や地域福祉への取り組みに反映させている。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月空床状況の報告。更には運営推進会議に市職員の出席をいただき適切なアドバイスを頂いている。又、生活保護受給利用者の担当ケースワーカーと常に利用者の状況を共有している。	毎月、田川市役所に空床状況を報告し、事故報告、困難事例、疑問点等を相談しながら連携を図っている。また、運営推進会議に地域包括支援センター職員が出席したり、生活保護者の情報交換をケースワーカーと行い協力関係を築いている。
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々のミーティングや月1回の職員会議にて身体拘束をしないケアの説明をしている。又、現在身体拘束となる事例はない。	要介護5の方が、車椅子ベルト使用の状態で入居された時点で、職員間で検討し、ベルトの使用を中止した。日々のミーティング時や毎月の職員会議の時に、身体拘束について話し合う機会を持ち、言葉や薬の抑制も含めた拘束が利用者には及ぼす弊害を職員一人ひとりが理解し、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のミーティングや月1回の職員会議にて他事業所の虐待事例を発表し、虐待防止に常に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用はないが勉強会に参加し、又行政職員に適切なアドバイスを求めるなどしたい。	日常生活自立支援事業や成年後見制度を活用している利用者はいないが、利用者や家族にとって重要な制度であることを、職員一人ひとりが認識し、勉強会に参加する等して理解を深めている。資料やパンフレットを用意し、利用者や家族が制度を必要とする時には、内容について説明を行い、申請機関に橋渡し出来る体制を整えている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書及び契約書にて十分な説明を行い納得していただいた上でご契約いただいている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に要望や意見を聞きミーティングにて話し合い実践している。又、前回の外部評価にてご指導いただいたとおり平成26年2月より担当職員により「老花家だより」を作成し、面会者や家族へ配布している。	職員は日々の暮らしの中で、利用者の思いや意向を聴いている。家族の意向は、面会時や夏祭り等の行事参加の時、又は電話で聴き取り、ホーム運営や利用者の介護計画に反映している。また、平成26年2月より、毎月「老花家だより」を発行し、遠方の家族も、「暮らしが良くなる」と喜ばれている。	
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや月1回の意見交換会にて職員の意見や提案を早期に解決できるよう日々努力をしている。	毎月の意見交換会には、夜勤専門の職員も含め全員が参加し、敢えて議題は決めずに、「次の会議でこれを話そう」と、各自が持ち寄った議題について話し合っている。出された意見については、出来るだけその場で決めて実行に移すように努め、職員のモチベーションの維持に努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の賞与年1回の給与改定にて人事考課表を活用しながら決定しており各自が向上心を持って働けるような環境作りをしている。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用にあたっては年齢・男女別で排除していない。又、資格取得へのバックアップも優先的に公休を与えるなど考慮している。今年度は3名の支援員が介護福祉士の国家資格を受験する。	職員の募集は、年齢や性別、資格等の制限はなく、働く意欲や人柄を優先している。採用後は、勤務時間、希望休等に配慮し、職員間でカバーし合い、働きやすい職場環境作りを努めている。日頃から、「資格は大事」と話し、所長自ら簿記3級に挑戦する等の姿勢を示し、積極的に資格取得をバックアップしている。また、常に職員自らが考える事を大切にして、意欲と向上心を持って働けるよう支援している。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	「その人らしく生きる」サービスを理念とした人権教育を日々のミーティングや月1回の職員会議にて取り組んでいる。	その人らしい暮らしの実現のため、「NOと言わないサービス」に努め、飲酒や煙草、毎日の入浴、土曜の夜のカラオケ等、利用者の希望を大切にした支援に取り組んでいる。日々の気づきや疑問等について、毎日のミーティングや月1回の会議で話し合う事で、人権教育に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者に介護福祉士、介護支援専門員、社会福祉主事、日商簿記3級の有資格者を配置し日々の業務の中でトレーニングを進めている。又、資格取得等の意欲のある職員に対しては柔軟なシフトを組み対応している。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当法人は、障がい者や高齢者の利用できる事業所が合わせて10あり日々の業務や親睦会等の中で交流をすることでサービスの質の向上に努めている。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずは十分なコミュニケーションを作ることを重点に利用者がなんでも話のできる体制づくりを心掛けている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	じっくり時間をかけご家族の要望等を聞き福祉のプロとして適切なアドバイスすることで信頼関係づくりをしている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族の要望をじっくりと聞き「今何をすべきか」を見極め福祉のプロとして適切なアドバイスができるよう努力している。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者自ら「手伝うよ」と言っただけ又、これが私の仕事と思っただけのよう共にグループホームで生活しているような雰囲気作りをしている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や家族の家へ訪問の際利用者の状況を常に報告しており何でも職員に話ができるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設のデイサービスを利用していた方が数名入居しており今でもデイサービスに遊びに行ったり、合同で行事を行うなど交流を図る支援をしている。	利用者の友人、知人の面会時には、ゆっくり話せる環境を提供し、また来て頂くよう声掛けを行っている。また、「ちょっと行ってくる」と、デイサービスに遊びに行ったり、かかりつけ医への受診時の待時間、病棟へ伺って友人に会ったり、帰りに馴染みの店に立ち寄って饅頭を買う等、馴染みの関係を大切にしている。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎週土曜日はカラオケ第1・3日曜日はビデオ上映会をリビングで開催し、極力居室に閉じこもらないよう支援をしている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	開設後1年9カ月経過しているがまだサービス利用終了者はいない。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中で利用者の思いや希望を把握し、なるべく100%かなえられるよう支援している。	現在、意向表出の出来る利用者がほとんどであり、日々の暮らしの中で、利用者の思いや意向を聴き取り、家族と話し合い、出来る事から実現に向けて取り組んでいる。また、意思表示の困難な利用者には、職員が寄り添い、見守り、利用者の仕草や表情から、思いを汲み取る努力をしている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居申し込み時や面談時になるべく詳しく利用者の生活歴を聞き支援計画に結び付けている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	9名ともある程度生活のリズムが決まっていることを把握している。いつもと違うリズムで過ごしている場合は特に気を付けて見守りをしている。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングで利用者より要望を聞き又、面会時等家族の要望も含め3カ月に1回介護計画の見直し及び作成をしている。	家族の面会や行事参加時、又は電話で家族と話し合い、意見や要望、心配事等を聴き取り、職員間で日頃の気づきを出し合い、カンファレンスで検討し、利用者本位の介護計画を3ヶ月毎に作成している。また、介護計画が機能しているかを確認し、利用者の状態に合わせ、その都度見直しを図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の毎日の心身状況を個別ケース記録に記入。管理者及び全職員による毎日の確認をし利用者の毎日の心身の状況を共有している。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その日に出た課題に関してはなるべくミーティングにて話し合い即日解決できるよう取り組んでいる。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所のみならず法人内で運営をしている居宅介護支援事業所やデイサービス等の情報・アドバイスを頂きながら利用者が安心して生活できるよう支援している。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医をそのまま引き継ぎ定期的な通院をしている。又主治医とも密な情報交換をすることにより適切な医療を受けることで健康保持につなげている。	利用者、家族と契約時に話し合い、入居前からの馴染みのかかりつけ医の受診を支援している。職員が受診に同行し、主治医と常に連絡を取りながら医療情報を共有し、家族にはその都度報告を行い連携を図っている。また、併設デイサービスの看護師に、利用者の健康状態を報告した上で指示を仰ぐ等、安心な医療体制を整えている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設のデイサービス看護師に利用者の変化があった場合すぐに報告相談をし適切なアドバイスを頂いている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者9名中8名が入院対応可能である病院に通院しており入院があった場合週3回以上は病院に出かけ情報交換をしスムーズな退院対応ができています。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に対する本人・家族の考えを十分に聞きグループホームでできる事できない事を説明し話し合うことができています。	契約時に利用者や家族に、ホームで出来る重度化の支援について説明し、了承を得ている。また、利用者や家族の考えも十分に聞き、出来るだけ意向に応えられるようにしている。利用者の重度化に合わせ、家族や主治医と密に話し合い、今後の方針を確認している。	基本的には、看取りをホームでとの思いはあるが、現実には、食事が摂れなくなったら病院へ転移という事になるので、ホームで出来る事、出来ない事を記した、「重度化、終末期に係る指針」の作成が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを配置しており外部講師による講習をしていただいた。又毎日のミーティングや月1回の職員会議を通じ管理者より対応方法の勉強をしている。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の避難訓練を実施する事で全職員が把握している。又、隣接の三井鎮西区公園を避難場所としてお願いしている。	避難訓練を年2回実施し、通報装置、消火器の取り扱い、避難経路、非常口、避難場所を確認し、利用者を安全に避難誘導出来るように取り組んでいる。近隣に住んでいる職員が数名いるため、非常時に駆けつける体制も整えている。	消防署の参加を得て訓練を実施し、ホームの状況を伝え、指導を受ける機会を持つ事と、運営推進会議を通じて、地域住民の協力を呼びかける事が望まれる。また、非常災害時に備え非常食の備蓄や持ち出し情報の整備等を期待したい。
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重しプライドや羞恥心に配慮した介護サービスの提供をしている。	何よりもその人らしい暮らしを尊重した支援に努めている。飲酒や煙草は、ドクターと相談して継続し、毎日の入浴も当たり前の事として支援している。入居時、ミキサー食で食事介助が必要だった利用者は、職員の根気強い取り組みで、刻み食を自力で食べられるようになった。利用者の表情からも、一人ひとりが尊重された支援が行われている事が窺える。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	YES、NOの閉ざされた質問でなくどうしたいですかと開かれた質問をなるべくすることで自己決定へとへと導いている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	部屋でゆっくりしたい人リビングで過ごしたい人又は日によって逆の方もいるためなるべく好みにしていただけるようにしている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれは自立された方には好きなようにしていただき屋外の美容院への送迎もしている。自立できない方は買い物外出の際洋服を見せ選んでいただいている。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃の会話の中で何が食べたいかリクエストいただき実現している。又、食器洗いやテーブル拭きは積極的に利用者が手伝ってくれている。	職員は、利用者の食べたい物を聴いて、手作りの美味しい食事を提供している。鍋に蟹の爪を入れたり、節分には恵方巻、クリスマスには宅配ピザ、回転ずしを食べに行く等、食事を大切にして楽しめる取り組みがある。また、利用者同士が声を掛け合い、配膳や食器洗い、テーブル拭きを率先して生き生きと行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護職員により食事メニューを作成しているが全利用者定期受診での血液検査等の結果常に大きな問題は出ていないため栄養摂取や水分確保の支援については問題ないと思われる。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立した方への見守りの徹底。支援が必要な方へは介助による口腔ケアを行っている。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1名のみオムツ使用であるが他の方は自立されている。排泄の失敗をする方もおられるが素早く且つ気持ちが傷つかないように処理をしている。	職員は、利用者の生活習慣や排泄パターンを把握し、早めの声掛けやトイレ誘導で、失敗の少ないトイレでの自立に向けた排泄の支援に取り組んでいる。また、夜間もトイレ誘導を出来るだけ行い、オムツ、紙パンツ使用の軽減に取り組んでいる。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分・運動によりできるだけ便秘にならないよう支援している。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	月曜日から土曜日入浴の準備をしており、無理な声掛けはせず入浴を楽しんでいただいている。毎日入浴される方もいる。	入浴は、利用者の希望を優先し、月曜日から土曜日まで入浴出来るように配慮し、半数の方が毎日入浴している。また、所長が設計時から関わり、脱衣所を広くとり、手すりを沢山設置し、浴室はカラフルなタイルを用いて明るい雰囲気にし、気持ちよく入浴出来るよう配慮している。拒否のある方に対しては無理強いせず、タイミングを計りながら声掛けしている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人その人にゆったりとした時間が流れるよう、又気持ちよく睡眠ができるよう居室の温度調節にも気を付けている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各職員薬の手帳を確認し、薬の変更時は申し送りにて情報の共有をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎週土曜日の夕食後、カラオケの日としており歌が好きな利用者は多数おられ楽しみにされている。		
51	2.1	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月2回買い物外出をしているが本人の希望があれば食材の買い出し等を利用してなるべく希望がかなうような体制にしている。	気候の良い時期は毎日のように隣接団地の公園への散歩に出かけ、東屋でお喋りし、敷地内の鶏小屋に寄って帰るのが日課となっている。また、月2回の買い物外出や病院への通院、バスハイク、外食等、利用者の気分転換に繋がる外出の支援に取り組んでいる。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	約半数の方は自分でお金の管理はできているが面倒になっているあるいはわからない方へは支援を要している。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば家族への電話をかけさせていた		
54	2.2	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るさや温度調整に気を配り常に清潔にしている。又自然と居間に人が集まるような間取りにしている。	利用者がリビングに集まりやすい造りとなっていて、それぞれの自分の場所でテレビを観たり、お喋りしたり、洗濯物を畳んだりして過ごしている。蠅叩きを持った利用者が虫を退治するのを職員が笑顔で見守り、食事の配膳や食器洗い等も自分の役割として行い、ホームは皆にとっての大きな家である事が窺える。また、行事の写真を掲示し、季節の飾り等で温かな雰囲気作りに取り組んでいる。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	館内に喫煙コーナーを設け気の合った利用者同士でよく話している。		
56	2.3	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際は何でも持ち込みOKとしておりその人その人らしい特色のある部屋づくりをされている。	それぞれ違う色の居室のドアにして、自分の部屋が認識し易いようにしている。利用者が長年使ってきた家具や大切な物等を持ち込んでもらい、その方の状態に合わせてレイアウトする等工夫して、利用者が安全に、安心して暮らせるよう支援している。また、常に清掃、換気を心掛け、気持ちよく過ごせるよう配慮している。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーはもちろんであるがなるべく多くの手すりを設置し、安全かつ自立を継続できるグループホーム設計の工夫をしている。		